

サイエンスアカデミー中学3年コース（生物）開催

- ◇期 日：令和5年9月23日（土）
- ◇場 所：化学実験室
- ◇参加者：中学3年生15名、SS生物部員3名
- ◇指導者：SS生物部顧問 藤井泰紀先生

サイエンスアカデミーとは、高校生と小中学生が交流しながら、科学に対する関心を高めるとともに、互いの科学的思考力などを伸ばすことを目的とした活動です。今回は理科の生物部門でした。

前半は視覚について学びました。光を受容する視細胞は二種類あることや、盲斑という、視細胞がなく光を受容できない部分があることなどを学びました。盲斑を体感しようという実験では、片眼を閉じて黒丸の位置を変化させて黒丸が消える距離を探しました。半信半疑で行いましたが、実際に黒丸がなくなり驚きました。先生の話にメモを取りながら真剣に耳を傾けたり、時々投げかけられる質問を一生懸命に考えたりする中学生の様子を見ることができました。



後半は「ニワトリの頭部の解剖」を行いました。最初は怖がっている様子も見受けられましたが、進むにつれて真剣な顔つきに変わっていきました。慎重に皮膚や頭骨を取り外し、脳の観察をしました。教科書で見るとは一味違う実際の脳を観察し、興味が惹きつけられました。脳という存在をととても身近に感じました。また、ニワトリの頭に占める、目の割合がととても高いことに驚きました。



今回のサイエンスアカデミーを通して、生物の体の構造についてより興味を持ちました。また、実際に実験を行うことによって、教えていただいたことを身近に感じることもできました。中学生と一緒に考えたり、実験を行ったりしたことによって、自分自身の理解を深めることもできました。このサイエンスアカデミーを通して授業だけでは学びきれない様々なことを学ぶことができ、とても良い経験になりました。